

研究タイトル:

明治・大正期の冒険小説とその関連メディアの研究



| | | | |
|-----|----------------------|---------|---------------------------|
| 氏名: | 武田 悠希 Yuki Takeda | E-mail: | y.takeda@maizuru-ct.ac.jp |
| 職名: | 講師 | 学位: | 博士(文学) |

所属学会・協会: 日本近代文学会, 日本近代文学会関西支部, 日本文学協会, 日本比較文学会, 立命館大学日本文学会

キーワード: 押川春浪, 冒険小説, 出版文化, 日本近代文学

技術相談
提供可能技術:

- ・日本近代文学作品の読解、それらに関する調査
- ・明治・大正期の出版文化に関すること

研究内容: 押川春浪を起点とした明治・大正期の冒険小説とその関連メディアの調査・分析

冒険小説の作家として明治・大正期に知られた押川春浪を調査・分析・読解の起点として、明治半ばから大正初期にかけての冒険小説とその関連メディアの研究をしています。

押川春浪(1876-1914)は、明治33年(1900年)に、ジュール・ヴェルヌの作品などに影響を受けた『海底軍艦』というSF冒険小説で作家として出版界に登場してから、同時代のメディアにおいて、冒険小説の作家として知られるようになっていきました。その作品では、魔法や不思議現象、未知の科学技術などが次々に登場し、少年少女だけでなく、学生、軍人、探偵、家庭の女性たちなど多様な人物が縦横無尽に活躍します。さらに、押川は作家として活動しただけではなく、博文館の「日露戦争写真画報」に携わって以降、雑誌の記者や編集者としても手腕を発揮しました。明治・大正期の出版文化を捉えるうえで看過できない重要な作家です。

今では個別のジャンルとして存在するのかもしれない「冒険小説」ですが、明治・大正期においては、日本近代文学や児童文学が成立していく一方で、読者を楽しませることを目的とした商業的出版物の一領域として大きく発展していきました。文学作品が日本の近代化を思考し描いてきたように、これらのテキストもまた、学校教育や徴兵制をはじめとする近代国家建設のための仕組みや、日本の植民地獲得競争への参入、都市の変容など、日本の近代化の諸相をさまざまに描いています。

「冒険小説」と言っても、その内容には、探偵・SF・怪奇・ファンタジー・講談など、海外作品や同時代の文化状況の影響のもとに、多様なジャンルの要素が含まれており、現代のポップカルチャーにも通じています。さらに、その執筆者たちが記者として働いていた新聞や、編集者として携わっていた雑誌が多数あり、そこでは写真や絵画や誌面のデザイン・レイアウトまで含めて多様な斬新さを追い求めた表現で「冒険小説」の周辺に広がる様々なテキストが提供されていました。

以上のように、内容においても表現においても、冒険小説とその関連メディアの存在感は、明治・大正期の文学・文化状況のなかで決して小さいものではありません。

今はまだ、日本近代文学史や日本児童文学史の傍流として認識されている段階ですが、これらのテキスト群の実態と広がり調査によって明らかにし、さらに、文学研究の手法を用いて、それらに見られる表現が、いかに日本の近代を思考したのかを分析することで、こうした商業的出版物の文化的・文学的意義や位置づけに迫りたいと考えています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

| 名称・型番(メーカー) | |
|-------------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |

エネルギー

環境

材料

生産・製造

計測・制御

情報・通信

防災減災

医療福祉・バイオ

文化・都市計画